

7 章 橋台・橋脚工

7.1 橋台・橋脚工

7.1.1 橋台・橋脚工（1）

7.1.2 橋台・橋脚工（2）

7章 橋台・橋脚工

7.1 橋台・橋脚工

7.1.1 橋台・橋脚工(1)(構造物単位)

1. 適用

橋台及び橋脚の施工に適用する。なお、以下の適用を外れる橋台・橋脚については、橋台・橋脚工(2)」を適用する。

1-1. 適用出来る範囲

- (1) 構造物高さ5m以上25m未満のT形橋脚（躯体が円形及び小判型含む）の場合
 - (2) 構造物高さ5m以上20m未満の壁式橋脚（躯体が小判型含む）の場合
 - (3) 構造物高さ12m未満かつ翼壁厚0.4m以上0.6m以下の逆T式橋台の場合
- なお、橋台パラペットを後施工する場合、構造物高さに後施工分は含まない。

1-2. 適用出来ない範囲

- (1) 同一構造物で、フーチングと躯体のコンクリート強度が異なる場合。
- (2) フーチングのみの工事、又は躯体のみの工事の場合。
- (3) 化粧型枠を使用する場合
- (4) 手摺先行型枠組足場以外の足場を使用する場合

2. 数量算出項目

橋台・橋脚本体コンクリート（橋台においては翼壁を含む）、鉄筋の数量を区分毎に算出する。
また、基礎砕石（敷均し厚20cm以下）、均しコンクリートについては必要の有無を確認する。

- 注) 1. 鉄筋については「第1編（共通編）4.3.1鉄筋工」によるものとする。
2. 基礎砕石（敷均し厚20cmを超える場合）については、「第1編（共通編）9.1基礎・裏込砕石工」によるものとする。
3. 冬期の施工で雪寒仮囲いが必要な場合については、「第1編（共通編）11.6.2雪寒仮囲い工」によるものとする。
4. 逆T式橋台において水抜パイプが必要な場合は、別途考慮するものとする。

3. 区分

区分は、規格、形式とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

区分 項目	3次元 モデル	属性情報				
		規格	必要性の 有無	単位	数量	備考
橋台・橋脚コンクリート	A	○	×	m ³		
基礎砕石	C	×	○	-		
均しコンクリート	C	×	○	-		
鉄筋工	B	○	×	t		

橋脚、橋台の3次元モデルに付与するによる数量算出の条件区分（属性情報）を以下に示す。

- 橋台・橋脚コンクリートの属性情報の規格は生コンクリート規格を付与するものとする。
- 基礎碎石と均しコンクリートは、必要性の有無を判断するものである。この場合、幾何形状を作成せずに、橋台や橋脚のオブジェクトに対して付与する属性情報を利用して必要性の有無を表現することを基本とする。なお、3次元モデルの幾何形状を作成することを妨げるものではない。
- 鉄筋工は、3次元CADの機能があり、手間を掛けずに3次元モデルが作成できる場合には、3次元モデルを作成する。数量付与する属性情報は鉄筋材料規格・径とする。

注) 1. 橋台・橋脚本体コンクリートの規格はコンクリート規格とする。

2. 橋台・橋脚本体コンクリートの形式は、逆T式橋台、T型橋脚、壁式橋脚とし、各形式における打設量区分については、3. (2)を参照のこと。

3. 雪寒仮囲い等で足場が必要な場合及び特殊な足場を別途計上する必要がある場合は、必要の有無を「×」とし別途算出する。なお、一般的な施工をする場合は必要の有無を記載する必要はない。

(2) 規格

橋台・橋脚コンクリートの生コンクリート規格ごとに算出する。

鉄筋工の鉄筋材料規格・径ごとに算出する。

(3) 形式

橋台・橋脚形式ごとに算出する。

1) T型橋脚

構造物高さ区分 打設量区分	5m以上 10m未満	10m以上 15m未満	15m以上 25m未満
100m ³ 以上 300m ³ 未満	○	—	—
300m ³ 以上 500m ³ 未満	○	—	
120m ³ 以上 220m ³ 未満	—	○	
220m ³ 以上 440m ³ 未満		○	
440m ³ 以上 650m ³ 未満		○	
290m ³ 以上 910m ³ 未満		—	○
910m ³ 以上 980m ³ 未満		—	○

(注) 打設量は、1基当たり全体の打設量とする。

2) 壁式橋脚

構造物高さ区分 打設量区分	5m以上 15m未満	15m以上 20m未満
100m ³ 以上 280m ³ 未満	○	—
280m ³ 以上 700m ³ 未満	○	
250m ³ 以上 520m ³ 未満	—	○
520m ³ 以上 700m ³ 未満		○

(注) 打設量は、1基当たり全体の打設量とする。

3) 逆T式橋台

構造物高さ区分 打設量区分	5m未満	5m以上 7m未満	7m以上 9m未満	9m以上 10m未満	10m以上 11m未満	11m以上 12m未満
50 m ³ 以上 140m ³ 未満	○	—	—	—	—	—
140m ³ 以上 260m ³ 未満	○					
50 m ³ 以上 90 m ³ 未満	—	○				
90 m ³ 以上 160m ³ 未満		○				
160m ³ 以上 310m ³ 未満		○				
70 m ³ 以上 110m ³ 未満		—	○	—	—	—
110m ³ 以上 210m ³ 未満			○			
210m ³ 以上 310m ³ 未満			○			
130m ³ 以上 280m ³ 未満	—	—	—	○	—	—
280m ³ 以上 310m ³ 未満				○		
230m ³ 以上 370m ³ 未満				○		
370m ³ 以上 650m ³ 未満			—	—	○	○
230m ³ 以上 320m ³ 未満				—	○	
320m ³ 以上 560m ³ 未満				—	—	
560m ³ 以上 650m ³ 未満				—	—	
				—	—	○
				—	—	○
				—	—	○

(注) 1. 上表は翼壁厚0.4m以上0.6m以下に適用する。

2. 打設量は、1基当たり全体の打設量とする。

(4) 基礎材・均しコンクリート

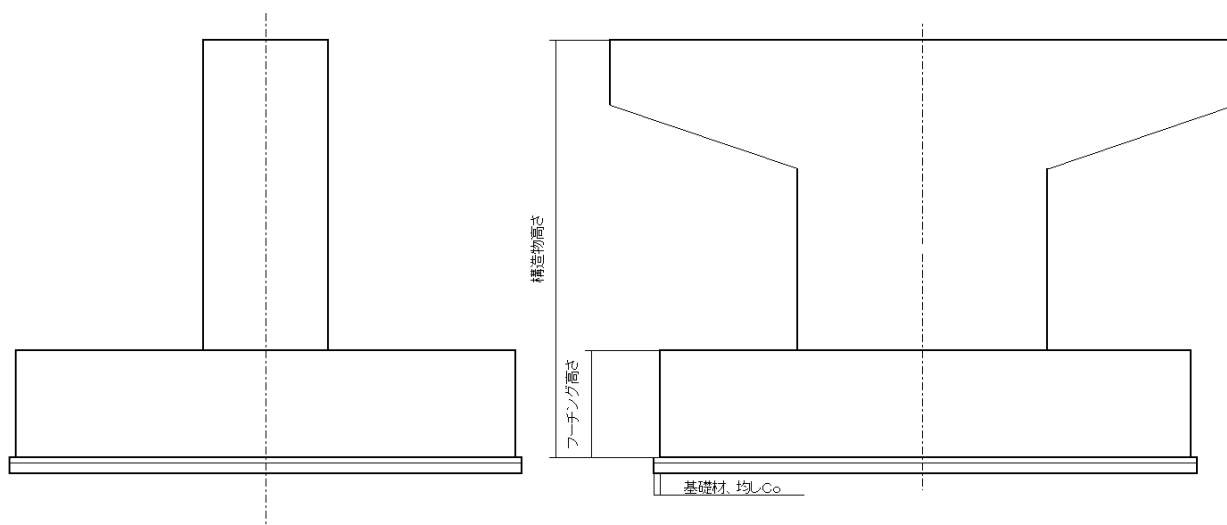
基礎材・均しコンクリートの有無を算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるものとする。

5. 参考図

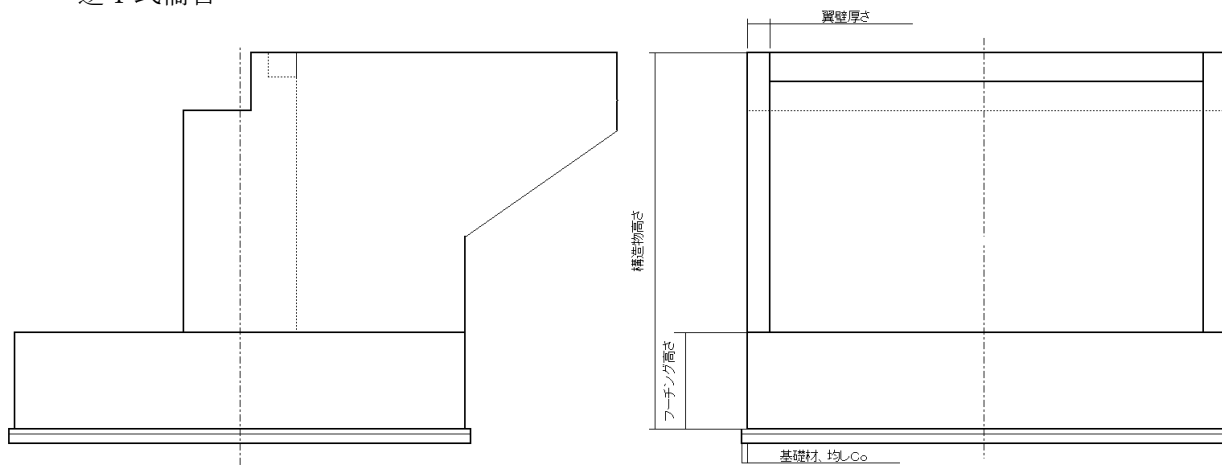
T型橋脚



壁式橋脚



逆T式橋台



7. 1. 2 橋台・橋脚工(2)

1. 適用

橋台・橋脚工（１）適用範囲を外れた橋台・橋脚のコンクリート打設に適用する。なお、適用可能な形式は、Ｔ形橋脚（円形及び小判型含む）、壁式橋脚（小判型含む）及び逆Ｔ式橋台とし、同一構造物で、コンクリート強度が異なる場合、フーチングのみ又は躯体のみの施工の場合は適用出来ない。適用を外れる橋台・橋脚については、「コンクリート工」等により別途計上する。

2. 数量算出項目

橋台・橋脚本体コンクリート（橋台においては翼壁を含む）、型枠（化粧型枠）、鉄筋、足場、支保等について、数量を区分毎に算出する。

- 注） 1. コンクリート（橋台・橋脚本体コンクリート）については、「7. 1. 1 橋台・橋脚工（１）」によるものとする。
ただし、形式については、特に指定は行わない。
2. 型枠については、「第１編（共通編） 4. 2 型枠工」によるものとする。
 3. 鉄筋については、「第１編（共通編） 4. 3. 1 鉄筋工」によるものとする。
 4. 足場については、「第１編（共通編） 1 1. 4 足場工」によるものとする。
 5. 支保については、「第１編（共通編） 1 1. 5 支保工」によるものとする。
 6. 基礎碎石については、「第１編（共通編） 9. 1 基礎・裏込碎石工」によるものとする。
 7. 均しコンクリートについては、「第１編（共通編） 4. 1 コンクリート工」によるものとする。
 8. 冬期の施工で、雪寒仮囲いが必要な場合については、「第１編（共通編） 1 1. 6. 2 雪寒仮囲い工」によるものとする。
 9. 逆Ｔ式橋台において、水抜パイプが必要な場合は別途考慮する。